

水稲 スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）情報

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は軟体動物門腹足綱タニシモドキ科に属する南米原産の大型の巻き貝で、幼苗期の**イネを食害**し、特に**湛水直播栽培では大きな被害**をあたえます。京都府では昭和60年に発生を認めて以来、徐々に発生地域が拡大し、現在、南丹地域以南で発生が確認されています。

スクミリンゴガイは**低温に弱い**ため、冬は**防除の適期**です。**越冬密度を下げる**ことにより、**被害の防止や発生地域の拡大抑制**を図ってください。

冬期の生態

- ・スクミリンゴガイは、水が少なくなると土中に浅く潜って越冬し、翌春、水田に水が入ると活動を再開し繁殖します。
- ・この貝は**低温に弱く日本における野外での越冬率は10%未満**といわれています。また、耐寒性は貝の大きさで異なり、中型の貝（殻高1～2cm程度）の越冬率が高いことが知られています。
- ・貝の**越冬率**は、収穫後のほ場に**稲わら**があると保温効果のため、また、**水路では水の保温効果のため高くなります**。

冬期の防除対策

- ・**厳寒期に浅く細かくロータリ耕耘し、越冬中の貝を寒波にさらす**とともに、この貝は殻が薄く傷つきやすいので、**機械的に破碎し死亡率を高めます**。
- ・**用排水路は越冬場所**となるため、泥土あげ等の**清掃を地域全体**で行うとともに、**不要水を落水**することにより、**越冬率を低下**させます。



スクミリンゴガイ



イネに産み付けられた卵塊